

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学II (材料)						
担当教員	横山 早美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	布（繊維集合体）は、繊維、空気、水分から成る複合材料である。繊維の性質と集合体構造により決定される布の性質が被服材料としての要求性能を満足していることを理解する。現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、素材から一次・二次製品への過程、繊維製品の組織、製造法、加工法などについて、日常生活の衣料の選択、使用、管理の場でこうした知識を応用、発展させることにより衣生活をより豊かなものにすることを期待する。
授業計画 Syllabus	第1回：被服材料とは 第2回：被服材料の種類 第3回：被服材料の歴史と繊維製品の生産と消費の動向 第4回：天然繊維の成り立ちについて（1） 第5回：天然繊維の成り立ちについて（2） 第6回：化学繊維の成り立ちについて（1） 第7回：化学繊維の成り立ちについて（2） 第8回：被服材料に要求される性能 第9回：被服材料の性能を支配する要素 第10回：保健衛生的性能（1） 第11回：保健衛生的性能（2） 第12回：外観・形態安定性能（1） 第13回：外観・形態安定性能（2） 第14回：被服材料の性能改善と新素材 第15回：期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義では、スライドやビデオを使用し、わかりやすい内容に工夫します。
評価方法 Evaluation	試験（80%）、授業中課題（20%）
履修上の注意 Requirements and policy	私語をつつしみ、講義に関係ないことは止めてください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	日下部信幸著；生活のための被服材料学 家政教育社
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1~4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザイン (ファッションおよびテキスタイルデザイン) に必要なスキルを身につける。 ファッションデザインでは、身体の立体感やプロポーション、動きを理解することが重要である。ここでは、人物デッサン、クロッキー、描画テクニックなどファッション・ドローイングの基本となる実習を行う。また、マーカーやパステル、水彩、アクリルなど各種画材の特性を把握させ、衣服のフォルム、色彩、素材感、バランスなどを表現する描写テクニックを養成する。最終的に、イメージしたデザインを最も効果的に現す技術の習得を目標とする。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「授業の進め方及び方針の説明」 2. 物体の観察及びデッサン線の練習 3. 明暗・立体感の表現 4. 人体のプロポーション及び動きの理解 5. 人物デッサン① (顔・手・足など) 6. 人物デッサン② (ポーズ) 7. 人物デッサン③ (クロッキー) 8. 衣服の表現 9. イメージマップ作成① 10. イメージマップ作成② 11. 彩色① (水彩、パステル) 12. 彩色② (マーカー、アクリル) 13. 彩色③-1 (Photoshop & Illustrator ツール使用) 14. 彩色④-2 (Photoshop & Illustrator ツール使用) 15. 作品完成及び評価 (フォトフォリオプレゼンテーション) 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って実習する。						
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。						
履修上の注意 Requirements and policy	実習の為、原則、欠席・遅刻なし。やむをえない場合は、2/3以上の出席。作品を必ず提出すること。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。参考書は、授業中に紹介。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks	クロッキー帳、ボード、A3サイズのファイル、絵具 (色鉛筆、マーカー) などを準備すること						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>パソコンのグラフィック・ソフトを利用したヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎実習を行います。</p> <p>タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムなどの視覚言語の要素的性質を理解し、実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定したポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれた美的なイメージをデザインできることを目標とします。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1: オリエンテーション システム・教室の使い方、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインについて</p> <p>2: Illustratorの基本操作</p> <p>3: タイポグラフィ・デザイン -1-</p> <p>4: タイポグラフィ・デザイン -2-</p> <p>5: ピクトグラム・デザイン -1-</p> <p>6: ピクトグラム・デザイン -2-</p> <p>7: ダイアグラム・デザイン</p> <p>8: Photoshopの基本操作 -1-</p> <p>9: タイポグラフィ中心のポスター</p> <p>10: ピクトグラムを活用したポスター</p> <p>11: Photoshopの基本操作 -2-</p> <p>12: 図像を効果的に構成したポスター</p> <p>13: リーフレット・デザイン -1-</p> <p>14: リーフレット・デザイン -2-</p> <p>15: 作品講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	出席状況、提出作品などを総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。
教科書 Textbook(s)	特に教科書は指定しません。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	吉田 文男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	デザイン関連の基礎学習として、空間認識向上面で製図とは異なった意味で模型制作は重要であり、特にハウジング分野では習熟すべき不可欠のスキルである。本実習では2年次以降の多様な模型制作のスタートとしてあるいはパソコンによるCGなどでは表現しにくい空間イメージ掌握を目的に、初歩的な模型制作を行う。実習内容は、模型制作の意味の解説と材料や実際の模型作品の紹介から始めて、インテリアと家具模型、住居、店舗などを紙やスチレンボードなどの材料で制作していく。
授業計画 Syllabus	第1回 (09月24日): 建築模型制作の基礎についてのガイダンス 第2回 (10月01日): 実習課題1 「サイコロ模型の制作」 第3回 (10月08日): 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」 課題説明と模型制作 その1 第4回 (10月15日): 実習課題2 模型制作 その2 第5回 (10月22日): 実習課題3 「木構造軸組模型制作」 課題説明と模型制作 その1 第6回 (10月29日): 実習課題3 模型制作 その2 第7回 (11月12日): 実習課題3 模型制作 その3 第8回 (11月19日): 実習課題3 模型制作 その4 第9回 (11月26日): 実習課題3 模型制作 その5 模型完成、及び提出 第10回 (12月03日): 実習課題4 「心地よい空間」 課題説明とスケッチ 模型制作 その1 第11回 (12月10日): 実習課題4 模型制作 その2 第12回 (12月17日): 実習課題4 模型制作 その3 完成、提出 第13回 (01月07日): 実習課題5 「小住宅(別荘)」 課題説明と模型制作 その1 第14回 (01月14日): 実習課題5 模型制作 その2 第15回 (01月21日): 実習課題5 模型作品の発表と講評会。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常の課題提出と最終課題の出来映えに、平常点である受講態度等を加味して総合的に判断をする。実習であり、課題は出席して授業時間に説明を聞かないと作業は進めない。故に欠席は減点とする。(評価比率: 平常課題40%、最終課題30%、平常点30%)
履修上の注意 Requirements and policy	建築模型の基礎的なことを学ぶ実習です。限られた授業時間の中での課題制作は時間との戦いです。毎回出席し締切厳守で授業に望んでください。 また、課題制作上必要なものとしてカッターナイフ (OLFA SAC・1細エカッター)、スチレンのり、木工ボンド、マスキングテープ 18mm幅、エスキス用グリッド用紙。スチレンボード 2mm厚、3mm厚、5mm厚、(サイズB4)、各2枚、KMKケント (イラストレーションボード サイズB4 両面白 1mm厚) 2枚、虫ピン針、裁縫用指ぬき (必ず必要)、ピンセット等があります。 詳細については授業中に説明します。
教科書 Textbook(s)	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>インテリアスペースや住空間をデザインするためには、製図板やCADでの製図をする前や合間に、頭に描いたイメージをまず、手描きのドローイングでスケール感やプロポーションをできるだけ正しくとらえ、表現してみることが重要である。この授業では、平面図・立面図・断面図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1点透視図法などの基本を学びながら、デザインに必要な様々なドローイングのスキルを身につけるための課題に取り組む。また各課題の題材については、デザイン・リサーチを行って理解を深め、ドローイング課題とともに発表、講評する形式で授業をすすめる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンスおよびインテリア改善の考え方について。図法を用いた家具のスケッチの練習。 第2回 様々な椅子のデザインを表現する。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法(アクソメ、アイソメ、キャビネット等)を用いたドローイングを描く。 第3回 様々な椅子のドローイングに、着色(色鉛筆)と文字による補足を加え、トータルにデザインを表現する。「マイホームのBefore/After」課題説明。デザイン・リサーチ(資料収集と実測)の方法を説明。 第4回 自宅のインテリア改善について、リサーチした資料と方針をまとめ、発表する。練習課題として教室を実測し、平面図と展開図を描く。 第5回 教室の実測平面図、展開図の作成。自宅のインテリア改善の具体的な提案をメモ書き。 第6回 リサーチに基づく自宅の改善部分の現況(Before)平面図と展開図を作成。 第7回 Beforeの平面図と展開図を着色して仕上げる。 第8回 一点透視パースの描き方練習問題。 第9回 Beforeの一点透視パースを描き、着色。 第10回 リサーチに基づく改善案をまとめたAfterの平面図と展開図を描く。 第11回 Afterの一点透視パースを描き、着色。 第12回 Before/After各ドローイングのチェックと修正、補足。 第13回 作成したドローイングをスキャナーで画像データ化し、パソコンでレイアウトする(Illustratorを使用)。 第14回 Illustratorでドローイングに文字と写真等による補足を加え、全体のレイアウトを整えて仕上げる。 第15回 プリントアウトし、「マイホームのBefore/After」課題作品完成。発表と講評を行なう。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。(評価比率:小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
履修上の注意 Requirements and policy	ワークブックとして使用する専用のノートとファイル、三角スケール、コンベックスを各自用意すること。サイズ等は授業中に指示する。また各自の課題内容に応じたデザイン・リサーチのための見学を行うよう、授業中に指示する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	「インテリア・スケッチ Super トーク」(長谷川矩祥著、グラフィック社) その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：色彩の知識を演習を通じ幅広く理解する</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>色彩には物理的、化学的、生理的、心理的な面などがある。それらの多岐にわたる領域から色彩の根本原理を理解し、応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。「色とは何か」という疑問を持ちながら、色彩の性格を理解し、色の表し方や色彩調和、色彩の知覚的効果、色彩の感情効果、色彩の美的効果を中心に理解する。次に、色彩の基礎的知識を得た上で応用編として、ファッション・ハウジングの配色計画を考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色の本質を説明する。 2. 色の体系：日本色研配色体系（P.C.C.S.）、マンセル色体系、オストワルト色体系を演習しながら学ぶ。 3. 色の見え方や感じ方：色の対比や同化を説明するとともに色の感じ方を演習を通じ学ぶ。 4. 配色①：色相をもとにした配色を演習する。 5. 配色②：明度をもとにした配色を演習する。 6. 配色③：彩度をもとにした配色を演習する。 7. 配色④：トーンをもとにした配色を演習する。 8. 配色⑤：バランス、アクセント、コントラスト、グラデーション、ドミナイトを演習する。 9. 配色⑥：まとまりや変化の配色、イメージにあわせた配色を考えてみよう。 10. 配色⑦：雑誌などを参考にしながら好みのカラー・コーディネートを考えてみよう。 11. インテリアカラーコーディネートの配色を演習する。 12. 肌色の基礎知識を学ぶ。 13. 肌色の見え方：肌色とP.C.C.S. トーンのカラー・コーディネートを演習する。 14. 肌色についてのカラー・ガイド：ピンク系、ナチュラル系、オークル系、ブロンズ系の肌色とのコーディネート説明する。 15. 応用編：トーン・オン・トーン配色、トーン・イン・トーン配色、トータル配色、カマイユ配色、トリコロール配色、ビコロール配色、マルチカラー配色を演習しよう。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：毎回、演習形式で行う。配色を演習する。
評価方法 Evaluation	○評価方法：提出物の評価や出席状況などにより総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。毎回、のり、はさみを持参。
教科書 Textbook(s)	<p>○教科書：財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』（日本色研事業株式会社）</p> <p>財団法人日本色彩研究所監修『インテリアカラーブック』（日本色研事業株式会社）</p> <p>ファッションカラー編集部編『Fashion Color Recipe おしゃれな色の選び方』（日本色研事業株式会社）</p> <p>財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199a』（日本色研事業株式会社）</p> <p>尚、『新配色カード199a』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。</p>
参考書 Reference(s)	○参考書：授業内にて紹介する。

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	家具や照明、グラフィックなど、インテリアデザインにおけるエッセンシャルなエレメントに着目し、モダンデザインの黎明期から現代までの、主要な空間とデザインの変遷をたどる。産業革命によって生み出されたモダンデザインの源泉をたどり、アール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920~30年代のムーブメントを経て戦後、アメリカ、イタリア、スカンジナビアや日本で生み出された優れたデザインのインテリアエレメントとそのデザイナー達について学ぶ。
授業計画 Syllabus	第 1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標）、インテリアエレメントの楽しみ方 第 2回 モダンデザインVSクラシック/西洋古典の空間とインテリアエレメント 第 3回 モダンデザインVS和のデザイン/日本の伝統空間とインテリアエレメント 第 4回 デザインの美学 身近に楽しむクラシックと和のデザイン 第 5回 モダンデザインの黎明—ジャポニズム/万国博覧会とアーツ・アンド・クラフツ 第 6回 アール・ヌーヴォーのデザイン 第 7回 アール・デコのデザイン 第 8回 1920年代—第 1次世界大戦後のデザイン・ムーブメント 第 9回 巨匠達の時代とデザイン 第10回 ミッド・センチュリーのアメリカ・イタリア・日本 第11回 北欧のデザイナー達 第12回 ポスト・モダンの時代 第13回 全体のまとめ、期末レポート中間報告、質疑応答 第14回 現代のデザイナー達—ミラノ・サローネ報告 第15回 期末レポートの発表と提出
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および期末レポートの成績 （評価比率：毎回のミニレポート60%、期末レポート40%）
履修上の注意 Requirements and policy	ミニレポートや配布資料をまとめる専用のノートとファイルを指定するので、各自購入のこと。詳細は授業中に説明する。
教科書 Textbook (s)	「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	衣、住の生活に関して、それらのデザインを学習する場合には、家族や世帯との係わり合いが大きく、基礎知識の習得は必須である。本講義では、家族の変容が著しい現代日本の都市社会に着目し、衣と住とに関連させながら家族に関する基本的事項の解説を行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 現代家族の役割・昨日 5. 家族の形態とその変化 6. 家族のライフスタイルと役割理論 7. 家族のライフスタイルとジェンダー理論 8. 家族のライフスタイルとライフコース理論 9. 家族のライフスタイルとコーホート理論 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポートと期末試験（授業中の小レポート40% 期末試験 60%）
履修上の注意 Requirements and policy	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また遅刻3回で欠席1回とする。
教科書 Textbook(s)	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	感性デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：ヒトの感性がどのように作用するか理解する。</p> <p>○授業の目的、概要</p> <p>デザインされたモノには機能性と審美性が備わっているが、それに対するユーザーの反応は必ずしも理性的にとどまらず感性的反応も重要な部分を占める。従って、ヒトの感性がどのように作用するのかを理解することはデザインプロセスにおいても不可欠の要因となる。</p> <p>従来、学術的に捕らえることが難しかった感性を多様な手法で客観的に研究する感性工学の考え方を理解し、ファッションやハウジング領域を中心に各デザイン分野に応用される感性的手法の意義や現状を理解する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 感性とは何か。 3. 感性を測ることとは何か。 4. 脳の構造と感覚情報処理 5. 感覚と感性デザイン① 視覚と感性 6. 感覚と感性デザイン② 聴覚と感性 7. 感覚と感性デザイン③ 嗅覚と感性 8. 感覚と感性デザイン④ 味覚と感性 9. 感覚と感性デザイン⑤ 触覚と感性 10. ファッションと感性① 和服と世界ファッション 11. ファッションと感性② 12. 工業デザインと感性① ヨーロッパの近代デザイン 13. 工業デザインと感性② 昭和のデザイン 14. 芸術の中の感性：絵巻物にみる日本の感性 15. 文学の中の感性
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験、提出物、出席状況による総合評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	○教科書：篠原昭、清水義雄、坂本博編著：『感性工学への招待』（森北出版株式会社）
参考書 Reference(s)	○参考書：授業中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>住まいの屋外環境「庭」への関心はますます深まってきている。ガーデニングという言葉が定着したように、庭のスタイルが多様化していることや、様々な雑誌などでの取り上げ方をみても、単に流行を追うのではなく、「庭の本質つまり自分なりにいかに愉しむか」を追求する住まい手が増えてきたということがわかる。</p> <p>一戸建ての庭はもちろんのこと、マンションのバルコニーにおいても今後は「マイガーデン」としての楽しみを見出そうとする層が増えてくるだろう。ファミリータイプのマンションのバルコニー規模はここ数年格段に大きくなってきており、庭としての機能（シンクやコンセント、照明実装など）も充実してきている。</p> <p>機能面だけではなく質という面で住まいを考えると、建物としての家と屋外環境そしてインテリアの3つは相互に関係している。単なる「外構」ではなく、楽しみのための「庭あるいはガーデンを語ること」が屋外環境を設計する上で、デザインの幅を大きく広げることにつながる。この講義では、「屋外環境をいかに形にしていけるか」を、機能面だけではなく、デザインやテクニカルな要素だけでなく、庭やバルコニーの楽しみとは何かといったことにも踏み込んで考えていきたい。また、住宅産業や造園業の現場での実践的な基礎的スキルを習得することも目指す。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>次のトピックスを扱う予定である。ただし順序は必ずしもこの限りではない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スタイル別に庭のデザインを整理する（日本・外国） 1 2 スタイル別に庭のデザインを整理する（日本・外国） 2 3 住まいの庭の居心地の良さや楽しみとは何かを考える・最終演習課題提示 4 庭の構成要素を整理する 5 外構・エクステリア・庭・ガーデン・ランドスケープなどの意味の違いを考える 6 住まいの庭の実例から学ぶ 7 設計上の留意点を整理する・中間演習課題提示 8 街並みデザインについて考える 9 植栽デザインの基礎 10 主要な植物（樹木・かん木・草花）を覚える・中間演習講評 11 バルコニーガーデンや壁面緑化について考察する 12 その他の庭デザインの事例研究 13 最終演習質問授業（授業内でデザイン作業をしてください。同時に進捗の確認と質問を受け付けます） 14 最低限の庭と設計手法 15 最終演習講評・庭づくりに関係する業種と庭づくりの現場アラカルト 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にモニター（実際の屋外環境やガーデン及びそれらの図面など）を見ながらの講義とする。 ・パワーポイントを使用する。 ・講義内容は自ら筆記してください。 ・講義途中に課題を与え、当該講義中ないし翌講義日に提出する簡単なレポートないしデザイン実習を行うことがある。 						
評価方法 Evaluation	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガーデンデザイン演習を含むレポート提出（中間1回・最終1回） 2 ミニ演習評価及び出席評価 <p>各評価の配分は下記のとおりである。 最終演習50・中間演習30・ミニ演習10・出席評価10</p> <p>なお、最終演習の課題は授業開始の早い段階で提示する。授業内容を自分のものとし、演習に活かして下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終課題は、実在する新築個人邸のガーデンのデザインを予定。 ・中間演習は、大型施設の庭の改修デザインを予定。 						
履修上の注意 Requirements and policy	演習には、色鉛筆や定規等が必要である（PCによる作図・プリントアウトでも可）						
教科書 Textbook(s)	なし						

参考書 Reference(s)	講師：清水光次著『自分流に愉しむ「気まま」な庭づくり』メタ・ブレーン発行（2002年） 植物図鑑（園芸植物がメインのものならどのようなものでもよい）
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築一般構造						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	建築の構造について概論的な知識を得る。 実験によって構造的なセンスを養う。 構造の重要性、面白さを認識し、この先の学習意欲を育む。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：授業の説明 構造を考える意味（導入）…薄い紙で強い柱を作るコンクール 構造力学の基礎の基礎</p> <p>第2回：鉄筋コンクリート造（1）鉄筋コンクリート造の構造原理</p> <p>第3回：鉄筋コンクリート造（2）鉄筋とコンクリート</p> <p>第4回：鉄筋コンクリート造（3）配筋</p> <p>第5回：鉄骨造（1）構造形式</p> <p>第6回：鉄骨造（2）厚紙で強い梁を作るコンクール</p> <p>第7回：鉄骨造（3）鉄骨造の実際</p> <p>第8回：木造（1）構造形式、木材</p> <p>第9回：木造（2）木造の実際（基礎、軸組）</p> <p>第10回：木造（3）木造の実際（小屋組、床組）</p> <p>第11回：木造（4）壁量計算、バランス検定の演習</p> <p>第12回：仕上げ（1）防水、屋根</p> <p>第13回：仕上げ（2）外壁</p> <p>第14回：仕上げ（3）内部仕上げ</p> <p>第15回：仕上げ（4）開口部 及び 期末試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義及び実習
評価方法 Evaluation	演習：30%、小テスト：30%、期末試験40% 欠席は減点対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	模型材料費を徴収する。（800円程度）
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	鈴木 三郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>建築基準法は、国民の「生命・健康・財産」の保護を図るために、建築物の「敷地・構造・設備および用途」に関し「最低の基準」を定めている。この建築基準法を守るということは「最低限の水準を確保する」ということであり、「十分に安全で安心できる快適な建築物」を保証するものではない。</p> <p>住宅は人間の生活に最も密接したものであり、生活の基盤である。住宅に要求される水準は、年々、高度で複雑・多岐なものとなってきている。そのため、住宅の企画・設計・建築・販売等にかかわる者は、単に建築基準法に精通しておればよいというのではなく、様々な建築関連法規に関する知識を十分に備える必要がある。</p> <p>この「建築関連法規」の講義は、建築関連法規の中心である建築基準法の「仕組み・制度や基本的考え方」を理解することを第一にし、併せて、今日的課題に対応するための「環境・福祉・景観・都市・防災などに関する法律」の概要を学び、ハウジング関連技術者としてのバックボンの形成に資することを目的とするものである。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1 「建築関連法規」とは 「建築関連法規」と言われるものには、どのような法律があり、そしてそれぞれの法律はどのような役割を果たしどのような規制が行われるのか。神戸における建築や街づくりの事例を見ながら、建築関連法規を概観する。</p> <p>2 「都市計画法」と「建築基準法」 建築物が建つ基盤としての都市、その都市が形成・整備される際に適用される「都市計画法」に関し「土地利用規制」・「開発許可制度」を中心に学ぶ。また都市計画法と建築基準法の密接な関連・役割分担を理解する。</p> <p>3 建築基準法「総則」 建築物を建築する際に最も関連の深い法律である建築基準法に関し、その法律の構成を把握し、その仕組みを理解する。また第1章「総則」、第6章「雑則」に規定される「用語の定義」や「手続きな」ど、建築士として最低限必要な知識を習得する。</p> <p>4 建築基準法「単体規定1」 建築物の安全確保に最も関係の深い建築基準法・第2章「単体規定」の主要事項（構造耐力・耐火・避難など）を学ぶ。</p> <p>5 建築基準法「単体規定2」 第4講に引き続き、「単体規定」の主要事項を学ぶ。</p> <p>6 建築基準法「集団規定1」 都市計画区域内に立地する建築物が満たすべき基準である建築基準法・第3章「集団規定」の主要事項（用途規制・建蔽率・容積率・斜線制限・日影規制など）を学ぶ。</p> <p>7 建築基準法「集団規定2」 第6講に引き続き、「集団規定」の主要事項を学ぶ。</p> <p>8 「法律」と「条例」 建築基準法からの委任を受け制定される「建築基準条例」、地方自治体が独自に制定する「建築関連条例」を学び、建築基準法との役割分担など、法律と条例の体系を理解する。</p> <p>9 建築基準法を巡る諸課題 マンションの構造強度不足問題や、EVなど建築設備による死傷事故の多発問題などを調べ、諸課題を認識する。またそれらの課題に関し、法律改正などどのような改善策が検討され実施されているのか、最新の情報をフォローする。</p> <p>10 景観法・都市景観条例とデザイン 景観法や都市景観条例を学び、神戸市における都市景観形成の取り組みを考える。また「伝統的建造物群保存地区」や「都市景観形成地域」内での設計・建築に際し、配慮が必要となる基準などについても理解する。</p> <p>11 マンション建設と住環境の保全 都市における大規模建築物の建設、特に高層マンションの建設を巡る住民紛争など、「住環境保全上の課題」を学び、課題解決のための方策を考える。</p> <p>12 超高齢社会とユニバーサルデザイン ユニバーサル社会に相応しい建築・住宅を担保するための法律「ハートビル法」をはじめ、超高齢社会における高齢者居住の確保に関する各種施策を学ぶ。</p>

授業計画 Syllabus	<p>13 「省エネルギー法」と「CASBEE」 改正・強化された「省エネルギー法」や、建築現場におけるリサイクルを推進する「建設リサイクル法」を学ぶ。また大都市で取り組みが進む「CASBEE」など、建築・環境を巡る最近の動きを知る。</p> <p>14 阪神淡路大震災住宅被害と耐震改修 阪神淡路大震災により極めて甚大な被害のあった住宅に関し、その被災状況を振り返り、耐震改修の必要性・重要性を理解する。また耐震改修の取り組み状況や助成制度も学ぶ。</p> <p>15 神戸市のハウジング 神戸市のハウジング、主として市営住宅について学び、市営住宅の「現況・課題・実施中の施策」を理解する。</p> <p>「期末テスト」</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席（30%）および期末テスト（70%）
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	教科書は使用しない。 毎回、講義開始時に出席者に対し教材プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築構造学						
担当教員	浅田 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	建築物を安全に設計するためには各種構造理論の基礎としての構造力学を理解することが不可欠である。建物に作用する力を把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形を理解することを目標とする。また建築士試験を始めるに当り、必要となる構造力学の考え方を理解することを目指す。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1) 第1章 建築構造とは 2) 第2章 力とモーメント 3) 第3章 力の合成と分解 4) 第4章 力のつりあいと力のつりあい式 5) 第5章 静定構造物 (1) 6) 第5章 静定構造物 (2) 7) 第6章 断面力の算定 (1) 8) 第6章 断面力の算定 (2) 9) 第7章 静定トラス構造物 (1) 10) 第7章 静定トラス構造物 (2) 11) 第8章 断面の応力および断面の性質 (1) 12) 第8章 断面の応力および断面の性質 (2) 13) 第9章 梁のたわみ (1) 14) 第9章 梁のたわみ (2) 15) まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、演習
評価方法 Evaluation	レポート 50%、試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	教科書を中心として授業を進める。授業では作図等の演習を行うため、定規（三角定規）、コンパス等の筆記具を用意すること。また授業内容の理解を深めるために、授業の節目ごとに演習問題を出題する。各自復習を兼ね、レポートとして提出すること。
教科書 Textbook(s)	「初学者の建築講座 建築構造力学」元結正次郎 市ヶ谷出版社 ISBN4-87071-188-5
参考書 Reference(s)	「イラスト図解 よくわかる構造力学」初版 市之瀬敏勝 著 ナツメ社 ISBN978-4-8163-4217-2
備考 Remarks	学外での現場等の見学も行なう。その場合の交通費などは自己負担。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>住宅の計画・設計に際してのみならず、考え・論じるときに抽象的なモノではなく、実際の実体・構造は何かから作られているのか知っていると理解しやすい。住宅を構成する材料（＝建築材料、building materials）に関する基礎知識の習得が目的である。</p> <p>建築物は、主要には骨組みである構造体、内外装・屋根の仕上げ、内部の間仕切りなどの造作や建具、電気・機械あるいは衛生といった設備関連、から成り立ち、各々が数多くの多様な部材・材料から作られている。ハウジングを学ぶ学生として、どのような建築材料があり、どのような特性を持ち、歴史的にどのように変遷してきたかを知ることは重要なことである。また、それらへの正しい理解をもって住居の設計や施工あるいは保全・改善に対処し、あるいは、住居に関してより深い理解がえられる。</p> <p>●建築材料学を学ぶ意義</p> <p>1) 住宅などの建築物を設計するためには不可欠 ・・・・設計のプロ（設計事務所や工務店、インテリアの専門家）としては、必要不可欠であり、二級建築士の資格取得希望者は必修科目である。</p> <p>2) ハウジング仕事関連知識 ・・・・①住宅や建築関連の仕事（販売やモデルルームの案内など）を将来する場合は知っておくべきもの ②直接的には使わなくても常識として知っておくべき、少なくとも建築はどのような材料から出来ているかを掴んでおく 3) 仕事は関係なくとも、生活者の常識として ・・・・将来マンションを買ったり借りたりするときあるいは戸建住宅住宅を建てる時に知っておいた方がよい</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、建築材料の概要（1）（歴史）</p> <p>第2回 建築材料の概要（2）（分類、性能）</p> <p>第3回 木材（1）（日本建築と木材、種類と特徴）</p> <p>第4回 木材（2）（強度、構造、規格・等級）、小テスト</p> <p>第5回 木材（3）・・・現場見学（学外）</p> <p>第6回 コンクリート（1）（コンクリートとは、セメント、骨材、水）</p> <p>第7回 コンクリート（2）（コンクリートの性質、調合、種類・強度）</p> <p>第8回 コンクリート（1）・・・破壊試験（学内）</p> <p>第9回 鋼材（1）（鉄の歴史、製作、性質・腐食、規格）小テスト</p> <p>第10回 鋼材（2）・・・現場見学（学外）</p> <p>第11回 焼成品（タイル、れんが、瓦、衛生陶器）</p> <p>第12回 ガラス（ガラスの歴史、特徴、種類）</p> <p>第13回 石（石の特徴、分類）</p> <p>第14回 左官材料・ボード類（左官とは、左官の種類、ボード類、プラスチック、塗料）</p> <p>第15回 部位別・性能別材料（床・壁・天井仕上げ、防火・耐火、防音・吸音）、小テスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は教科書を使った講義 ・毎回、質問用紙により、質問受け、次の週に回答。 ・コンクリートについては、学内で装置（1号館1階の圧縮試験機）を使って圧縮破壊実験を行なう ・スライド・ビデオ映写。
評価方法 Evaluation	平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>自分の身の回りの住宅や建物（大学の施設、自宅、街の建築物等、阪急六甲から大学までの周辺に目を向け、「この建物は何かから出来ているか？」と考えながら、とりわけ、工事中の建物をみると、内部が良く判って理解しやすい。</p> <p>可能な限り、建築工事現場の見学も行なう。ただし、交通費等は自己負担</p>

履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	松本進著「図説やさしい建築材料」(学芸出版社)を使用。
参考書 Reference(s)	随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン学						
担当教員	石崎 昂之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>建築は、人が住み・遊び・働くなどの必要機能を全うするために、安全・安心・快適かつ美しくなければならぬ。この目的を達成するため、建築物がどのようにあるべきか構想することがデザインである。そのためには、まずは優れた建築物に触れ、設計者の意図を良く知り、利用者の要求を追求し、これらの得たものを自らの建築イメージ形成に生かしていくことが重要である。本講義では具体的な事例を紹介しながら、このプロセスを経ることによって、建築デザインの何たるかあるいは、その意義を学んでいく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：建築デザインとは・「近代の建築」・安藤忠雄とヴォーリス 第2回：「現代の建築」・神戸の建築 第3回：「戦後日本の建築」・関西の建築 第4回：「建築表記の射程」・関西のハウジング 第5回：＜建築見学①＞神戸の建築を見学 第6回：「建築の原点」・欧州の建築① 第7回：「建築の要素」・欧州の建築② 第8回：「建築のかたち」・米国の建築① 第9回：「部分と全体」・米国の建築② 第10回：＜建築見学②＞本大学の建築を見学 第11回：「光について」・その他海外の建築① 第12回：「空間について」・その他海外の建築② 第13回：「近・現代の都市」・日本の建築① 第14回：「力の流れと表現」・日本の建築② 第15回：「持続可能性と建築デザイン」・総復習とこれからの課題</p> <p>(註) 「」は、教科書の内容、他は事例紹介。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書を使った授業を約1/2とし、後はスライド等によりデザイン的に優れた建築事例を紹介する。授業の他、2回は“建築見学”を実施し、建物の見方を指導する。
評価方法 Evaluation	「出席率30%」「講義レポート30%」「見学レポート(2回)40%」
履修上の注意 Requirements and policy	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築デザインに興味をもてるような授業を目指す。 2. 二級建築士の建築計画に出題ある範囲の内容について修得させる。
教科書 Textbook(s)	「テキスト建築意匠」平尾和洋・末包伸吾編著、学芸出版社
参考書 Reference(s)	特になし
備考 Remarks	特になし

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	植田 道則						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>題材として商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップをレポート、商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②阪神間のショップを見学し、その店が街を良くしている部分について考えます。</p> <p>③①②で学んだことを展開し、店舗のデザインを行う。主にインテリアデザイン中心です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>① 1. 課題説明（テーマと、インテリアデザイン設計課題を伝えます。） 2. ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介（ビデオ紹介）</p> <p>②学外研修（フィールドワーク）1：「西ノ宮ガーデンズの見学」 （ライフスタイルを創り出すショッピングセンターの魅力とは） 学外研修（フィールドワーク）2：「神戸市灘区 水道筋商店街の見学」 （ライフスタイルの一部となっている店舗の魅力とは）</p> <p>③学外研修（フィールドワーク）3：「神戸市旧居留地地区の見学」 （街の景観と共存する店舗の魅力とは） 学外研修（フィールドワーク）4：「ホテル事例（旧居留地内）の見学」 （商業の究極にあるもの、ホテルの魅力とは）</p> <p>④ 1. ②~③を通じた、店舗、商店街の課題抽出・課題解決のグループ発表 2. 課題発表</p> <p>⑤~⑩デザイン実技演習 （コンセプトワーク+エスキース+インテリアデザイン深耕（模型パース等）） 折を見て、私自身のスケッチや設計資料等を学生の方に紹介します。</p> <p>⑪~⑮デザインレビュー~プレゼ準備 （各人のデザインについてディスカッションし、理解を深めあう。 最終報告会のためのプレゼ準備を行います。）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>① : データスライド等を用いた講義</p> <p>②-③ : フィールドワーク</p> <p>④ : グループ学習他</p> <p>⑤-⑩ : 実技演習</p> <p>⑪-⑮ : 全体デザインレビュー+実技演習</p> <p>⑬ : フィールドワーク+自主学習（状況を見ながら適宜指導をします。）</p> <p>⑭-⑮ : 全体デザインレビュー（講評会2）</p>
評価方法 Evaluation	授業の出席率60%（各回小テスト含む）、成果物評価30%、最終発表と総合評価10%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>学外研修を通じて見聞き、感じたことを言葉、スケッチ、模型、写真、自分にあった表現方法を用いてデザインに反映することを心がけてください。 （交通費等は自己負担。）</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	イメージを伝えるのは図面だけではありません。自分にあった表現方法をこの機会に見つけてください。
---------------	---

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	具体的な建築物の調査・研究を通して、その建築に対する設計者、建築主、利用者等の想いを理解する。それを踏まえて、建築をデザインするにあたって何を重視すべきかについての自分なりの考えをしっかりと持つ。その考えを建築デザインにどのように反映させていくか、設計演習課題を通して習得する。						
授業計画 Syllabus	第1回：授業の説明、エリアレポートの説明、敷地見学 第2回：エリアレポート発表、コンセプトレポートの説明 第3回：コンセプトレポート作成、サイトプランエスキス 第4回：コンセプトレポート発表、サイトプランエスキス練り上げ 第5回：サイトプラン、住棟エスキス 第6回：住棟エスキス練り上げ、住戸エスキス 第7回：住戸エスキス練り上げ 第8回：図面作成（1）・平面図 第9回：図面作成（2）・断面図 第10回：図面作成（3）・立面図 第11回：スケッチパース、図面仕上げ 第12回：模型作製（1）・部品の図面作成 第13回：模型作製（2）・部品作製 第14回：模型作製（3）・組み立て 第15回：合評会						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	実習						
評価方法 Evaluation	平常点：30%、成果品の評価（過程を含む）：70% 欠席は減点対象とする。						
履修上の注意 Requirements and policy	腰を据えてじっくり物を見る。意識して物に感動する。 この姿勢で授業に参加して下さい。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	現代デザイン論						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「デザイン都市 神戸」 20世紀の市場経済、消費社会を通じて発展し、現代の社会・生活に広く浸透したデザインの世界では、個々の営利企業を中心とした商品としてのモノづくりという産業に即したデザインの姿から、より公共的、社会的規範を志向し、大きく変貌した在り方が模索され始めています。そうした一例として、この授業ではユネスコの「デザイン都市」に指定された神戸市の様々な取り組みを中心に現代的、未来的なデザインの方向性について考えます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1: オリエンテーション</p> <p>2: モダンデザインの誕生と20世紀</p> <p>3: ポストモダンデザインと消費社会</p> <p>4: サステナブル（持続可能な）デザインの考え方</p> <p>5: デザインの倫理性</p> <p>6: ユネスコと創造都市ネットワーク</p> <p>7: ユネスコとデザイン都市</p> <p>8: ファッション都市からアーバンリゾート都市神戸へ</p> <p>9: デザイン都市神戸のねらい</p> <p>10: デザイン都市神戸の取り組み - 1 -</p> <p>11: デザイン都市神戸の取り組み - 2 -</p> <p>12: デザイン都市神戸の取り組み - 3 -</p> <p>13: デザイン都市神戸の取り組み - 4 -</p> <p>14: デザイン都市神戸の未来</p> <p>15: まとめとテスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席状況、授業への積極性、レポートなどを総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	可能な限り演習形式に近い形で進めたいので、与えられたテーマに基づき自発的に調査し発表することを求めます。学外への見学を実施する場合があります。

教科書 Textbook (s)	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住環境論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間にとってどのような居住地が望ましいのかを考える。ここでは一連の建築学・都市計画学のじゆぎょうであまりふれられなかった二つの観点をもうける。第一は居住の権利論、ユニバーサルデザイン論など、第二は地球尾環境問題の観点からの居住地のあり方である。演習を含めて授業とする。
授業計画 Syllabus	1家具から地球までのデザイン 2ユニバーサルデザインとは 3新しい住生活のあり方 4高齢者・幼児・障害者のためのデザイン 5バリアフリー法のしくみ 6演習1 7演習2 8演習3 9地球規模の環境問題 10持続可能な都市の原理 11発展する居住の権利 12気候変動 13演習4 14演習5 15演習6
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	基本は講義であるが、演習を含む
評価方法 Evaluation	授業中に作成するいくつかの小課題により、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある
履修上の注意 Requirements and policy	ユニバーサルデザインや都市のサステナビリティに興味をもっていること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	奥 佳弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀初頭に起こった近代建築運動は、生活空間としてのモダンリビングを確立し、一般住宅を建築家が取り組むべき対象として位置づけ、新しい住宅モデルを数多く創出した。20世紀後半には住宅に対する価値観はさらに多極化し、量産化や規格化、プレファブリケーションなどが住宅建築の一領域として確立される一方、建築家による実践では独自の建築的可能性を追求した多くの注目すべき住宅が見られる。本講義では、そうした近代における住空間デザインの変遷を振り返り、作品の魅力に触れるとともに、その理論と実践について理解することを目標とする。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 01. オリエンテーション 02. レッド・ハウスと「アーツ・アンド・クラフツ運動」/オルタ自邸と「アールヌーヴォー」 03. ヒル・ハウスと「グラスゴー派」/ガウディの集合住宅と「モデルニスモ」 04. ストックレー邸と「ウィーン分離派」/A. ロースの住宅と「ラウムプラン」 05. F.L. ライトの住宅と「フローリング・スペース」 06. シュレーダー邸と「デ・スタイル」/メルニコフ自邸と「ロシア構成主義」 07. ル・コルビュジェの住宅と「住むための機械」 08. ミースの住宅と「ユニヴァーサル・スペース」 08. アアルトの住宅と「ナショナル・ロマンティシズム」 10. 2つのロヴェル邸と「カリフォルニア・モダン」/「ケース・スタディ・ハウス」 11. モダンリビングの行方：Ph. ジョンソンの「ガラスの家」とヴェンチューリの「母の家」 12. 日本の戦後小住宅：「最小限住居」 13. アーバン・ハウジング 1 pre-war：エイヘンハルト/キーフーク/ヴァイゼンホフ・ジードルンク他 14. アーバン・ハウジング 2 post-war：ユニテ・ダビタシオン/レイクショア・ドライブ・アパートメント他 15. まとめと試験 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	講義（パワー・ポイントを使用し、視覚的理解を深める）						
評価方法 Evaluation	期末試験100%。ただし、欠席、遅刻および授業中私語は減点。						
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁						
教科書 Textbook(s)	プリント配布。参考書は適宜、授業中に紹介する。						
参考書 Reference(s)	<ul style="list-style-type: none"> -黒田智子編『作家たちのモダニズム』学芸出版社、2003年（ISBN-10: 4761523077） -本田昌昭・末包伸吾（編著）『テキスト建築の20世紀』学芸出版社、2009年（ISBN-10: 4761531827） -Richard Weston著・黒川雅之（監修）『20世紀の建築』丸善、2004年（ISBN-10: 4621074687） -Colin Davies著・八木幸二（監修）『20世紀名住宅選集』丸善、2007年（ISBN-10: 4621078445） 						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に向けた計画論的・技術論的発展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。 概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。
授業計画 Syllabus	第1回：講義概要 第2回：住宅の機能 第3回：住宅計画の変遷 第4回：設備計画の変遷 第5回：ライフスタイルと住様式 第6回：家族の変容と住宅・住宅設備 第7回：高齢化と住宅・住宅設備 第8回：地域性と住宅・住宅設備 第9回：可変性と住宅・住宅設備 第10回：環境保全と住宅・住宅設備 第11回：環境共生住宅の事例 第12回：公共性と住宅・住宅設備 第13回：まち・コミュニティと住宅 第14回：今後の課題 第15回：まとめ 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小テスト40%、期末テスト60%、欠席した場合は減点。
履修上の注意 Requirements and policy	授業の一環として学外見学を実施 見学先：大阪ガス実験集合住宅NEXT21 (大阪市天王寺区清水谷町6-16、 阪急六甲駅より約1時間、阪急電鉄と大阪市営地下鉄を利用した場合540円)
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。</p> <p>具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジックな観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：環境共生・エコロジー</p> <p>第3回：地球環境問題(1)</p> <p>第4回：地球環境問題(2)</p> <p>第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費</p> <p>第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物</p> <p>第7回：快適な衣環境</p> <p>第8回：快適な住環境</p> <p>第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー</p> <p>第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル</p> <p>第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル</p> <p>第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル</p> <p>第13回：エコハウスの事例</p> <p>第14回：エコプロダクツの事例</p> <p>第15回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小テスト30%、授業内レポート30%、期末テスト40%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>評価では授業への取り組みを重視します。</p> <p>やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。</p>
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業内に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活防災学						
担当教員	石川 永子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的：</p> <p>●自らが生活するすまいや周辺における防災対策を考えるための基礎的な知識の習得 阪神・淡路大震災を経験した神戸に学ぶ学生として、震災復興と防災対策に関する基礎的な知識を習得する。震災復興に関して、具体的には、①地震発生メカニズム、②阪神・淡路大震災での被害、③復興過程における社会・経済的な課題、④復興公営住宅等の住宅再建に関する行政支援とその課題、⑤阪神・淡路大震災以後の災害による被害と復興について講義する。 防災対策に関しては、①東南海・南海地震における被害想定、②住宅・小中学校の耐震化等ハード面での整備について、③自主防災組織やNPOと住民による地域防災力向上のためのとりくみ等のソフト面の整備について講義する。</p> <p>●防災・復興における住環境について考える力を身につける ファッション・ハウジング学科の学生として、特に「生活」「すまい」という切り口から、高齢化社会における震災復興と防災対策を考える。例えば、阪神・淡路大震災の復興過程でつくられたコレクティブハウジングについてや、高齢者・障がい者にやさしい対策としての防災のユニバーサルデザイン化について、住教育の視点から防災教育を考える、等を予定している。</p>						
授業計画 Syllabus	1) 「生活防災学」講義の概要説明 2) 阪神・淡路大震災の被害と復興まちづくり 3) 人と防災未来センター見学・見学に関する小レポートの説明（日時は受講者と調整） 4) 高齢者等の災害時の避難生活環境について 5) 阪神・淡路大震災の復興に関するワークショップ 6) 地震災害からのすまいの復興（特に都市部の高齢者について） 7) 地震災害からのすまいの復興（地方都市と中山間地域について） 8) 地震発生メカニズムと建築物の安全性 9) 地震災害と防災都市計画 10) ユニバーサルデザインとすまいの安全・安心 11) ユニバーサルデザインと防災まちづくり 12) ユニバーサルデザインと市民参加のデザイン 13) ユニバーサルデザイン防災に関するワークショップ 課題レポートの説明 14) 生活防災と教育 15) 「生活防災学」まとめ						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	具体的な事例の写真や映像を使用して講義を行う。 発表やグループワークを取り入れた参加型の授業とする。						
評価方法 Evaluation	平常点30%、見学会に関する小レポート20%、期末レポート50%						
履修上の注意 Requirements and policy	生活防災学として日常の生活面での防災・復興の基本的な考え方を習得することを目的とするが、ハウジングデザインに関連した「すまい」「まち」の防災・復興について重点的に講義する。						
教科書 Textbook(s)	プリント配布による						
参考書 Reference(s)	随時紹介する						

備考 Remarks	レポート課題として、防災教育施設あるいは復興まちづくりに関する見学を1回予定。交通費は自己負担（神戸市内）。
---------------	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザインに効果的なテキスタイルをデザイン・生産するための基本知識習得を目的として衣服の素材であるテキスタイルの構造、性質、組織、生産、染色、加工技法などの特徴を理解させる。同時に、さまざまな民族に伝わる独自の染色加工方法やプリント柄や織物のデザインを企画提案するとともに作品の制作を目標とする。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは、授業の全体の流れを説明する。それからファッション素材に関する理解を得るために素材の構成（織物、糸、繊維、高分子）などについて説明する 2. 繊維の種類と実際の布を使った分類を試みる 3. 繊維から織物になるまでの過程を説明する 4. 糸と布の構造（組織）について説明する 5. 織機や織物の仕組みについて説明する 6. 染色技法（化学、天然染色）について説明する 7. 作品制作 - ①ポザギ（韓国キルト、パッチワーク）の紹介およびデザイン技法について説明する 8. 作品制作 - ②ポザギをデザインする 9. 作品制作 - ③ポザギ制作 10. 作品制作 - ④ポザギ制作 11. 作品制作 - ⑤ポザギ制作 12. 作品制作 - ⑥ポザギ制作 13. 作品制作 - ①制作したポザギ作品を用いた小物作り 14. 作品制作 - ②制作したポザギ作品を用いた小物作り 15. 作品発表 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。						
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。						
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし（やむをえない場合は、2/3以上の出席）。作品を必ず提出すること。						
教科書 Textbook(s)	李京玉、「私のポザギ」、けやき出版 ISBN-87751-236-5 C077（2004年）						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎) 						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成 						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。						
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子・崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、3クラスに分かれて5回づつ3通りの演習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得します。(中村) ・消費者の立場から、自身のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解します。(徳山) ・生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み(テイスト)を分類・操作するスキルを習得します。(笹崎)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ファッション・デザインの学びと意義 2. マイ・ファッション・ヒストリー(1) —ブレイン・ストーミングとマインドマップ— 3. 学科PCオリエンテーション WORDの使い方 4. マイ・ファッション・ヒストリー(2) —ファイル編集— 5. マイ・ファッション・ヒストリー(3) —WORDによるレポート制作— 6. ライフスタイルとファッション 7. ライフスタイルと自己分析 8. パーソナルカラー 9. ワードローブのコーディネート 10. マイ・ワードローブ —ファイル編集— 11. ファッション用語の収集及び小物のデザインを整理する 12. ファッションアイテムの分類 13. ファッション・素材の分類 14. 「国」というテーマによるイメージボードの制作 15. コンピュータ作業によるイメージボードの完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	レポート、課題提出、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	各演習は5回で完結し、グループによる演習・課題制作を行う場合もあるので欠席しないこと。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的</p> <p>テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に答える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・・・・・・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨てて勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、 体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（1） 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える（2） 第4回 自分の住まいを解剖する（1） 第5回 自分の住まいを解剖する（2）</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>●目的</p> <p>テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に答える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。</p> <p>中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨て勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、 体験的・実践的な学び方を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(増永担当)</p> <p>第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(1) 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える(2) 第4回 自分の住まいを解剖する(1) 第5回 自分の住まいを解剖する(2)</p> <p>(中林担当)</p> <p>第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心その1、想像をたくましく 第5回 アーバンデザインの絵心その2、立体をデザインする</p> <p>(米原担当)</p> <p>第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第5回 第2課題の発表と講評</p>
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	・ 3人の専任教員により、5コマずつのオムニバス方式により進める。進め方は各教員独自の方法を採用。
評価方法 Evaluation	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、各5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。 平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	・ 本演習は必修科目であり、必ず1年生のときに単位を取得すること。 ・ レポート課題として、ハウジング・インテリア関連の見学を1回予定、交通費等は自己負担（米原）。
教科書 Textbook(s)	・ プリント配布
参考書 Reference(s)	・ 随時紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培ったスキルを応用し、作品を制作する。初めに、これまで学んできたイメージ、歴史、身体、文化に関する知識を基に、各自の興味に沿ったコンセプトの設定、衣服のデザイン、素材、ボリュームのプランニングを提示する。その際、ファッションプレゼンテーション演習Ⅱと合わせて、企画、制作、発表という一連の流れを意識し、卒業研究・制作を視野に入れることが望ましい。次に、デザインした衣服の中から最もコンセプトを表現できる一体を選択、制作させる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは、授業の目的や全体の流れを説明する。 2. 各自テーマを決め、その背景をリサーチする 3. インスピレーションを引き出す。 4. コンセプトおよびストーリー作りをする 5. ファッションイメージマップの制作 6. ファッションデザイン画および衣服線画の制作 7. ポイントカラーを決める 8. 素材のイメージマップ制作 9. 作品制作 - ①パターン製図 10. 作品制作 - ②パターン製図 11. 作品制作 - ③裁断 12. 作品制作 - ④縫製 13. 作品制作 - ⑤縫製 14. 作品制作 - ⑥縫製 15. 作品をプレゼンテーションする
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	演習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	配布プリントを参考すること
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：「着る・装う」という行為を様々な方法から学ぶ。</p> <p>○授業の目的、概要 3年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、感性デザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、画像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるような演習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 図書館の利用の仕方と文献収集 3. 文献のまとめ方 4. 論文の書き方の説明 5. 論文の書き方の練習 6. 調査方法と実験方法の説明 7. アンケート作成の練習 8. インタビューの練習 9. 官能検査の説明 10. SD法の説明 11. 統計解析の演習① Excelを使って練習 12. " ② ソフトSPSSによる練習（検定法） 13. " ③ ソフトSPSSによる練習（多変量解析） 14. 多変量解析による結果と解説方法 15. テーマに基づいて諸言を書いてみましょう。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験、提出物、出席状況による総合評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。
参考書 Reference(s)	○参考書：演習中に紹介。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	4年生での卒業研究へと続く前半は都市計画・まちづくりに関するゼミである。都市作りの歴史や都市のあり方の新しい理論を文献から学習しつつ、具体的な地域の調査を行う。
授業計画 Syllabus	ゼミであるから、ゼミ員の討論によって変わるのでこれは例示である 1 都市計画の歴史（文献購読） 1 2 都市計画の歴史（文献購読） 2 3 テーマの設定 1 4 テーマの設定 2 5 テーマの設定 3（対象地域の設定） 6 調査 1 7 調査 2 8 調査 3 9 調査の中間まとめ 10 調査 4 11 調査 5 12 調査のまとめ 13 レポートやパネルづくり 1 14 レポートやパネルづくり 2 15 レポートやパネルづくり 3
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	文献購読、話しあい、調査、調査のまとめ（レポート・パネル）
評価方法 Evaluation	「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成してもらうので、100%の評価はそれで行う
履修上の注意 Requirements and policy	調査は土曜日や日曜日に振り返られることが多い
教科書 Textbook(s)	新書を2冊ほど選定する（講義が始まってから購入する）
参考書 Reference(s)	授業中にたくさん紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	3年次までのデザイン基礎科目やイメージリテラシー科目の学習を基盤に、ファッション領域を中心とするデザインの記号的な側面を理解し、その背景や基盤となる社会・文化的要因への関心を高める。またそうした理解を踏まえて具体的な現象の中にテーマを探し、新たな視点からその分析や考察を試み、その結果を分かり易い視覚表現に編集することを目標とする。他方で創造的かつ魅力的なイメージ表現手法やメディア操作技法の習得も試みる。さらに卒業研究の前段階として各自の問題意識の深化とテーマの具体化を促す演習を行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマ設定 (1) 従来の履修内容・関心事項、将来の進路などの検討 3. テーマ設定 (2) キーワードの整理と抽出 4. テーマ設定 (3) 研究目的・対象・方法・成果物の検討 5. 調査資料の収集・検索方法、調査計画・スケジュール 6. テーマ説明 (1) 質疑応答 7. テーマ説明 (2) 質疑応答 8. テーマ説明 (3) 質疑応答 9. 資料検討 (1) 収集資料の要約・整理 10. 資料検討 (2) 収集資料の要約・整理 11. 資料検討 (3) 収集資料の要約・整理 12. レポート概要・項目・目次の検討 13. レポート・提出物制作 (1) 14. レポート・提出物制作 (2) 15. プレゼンテーションと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点 (授業への積極的な参加、欠席の場合は減点) 20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%
履修上の注意 Requirements and policy	このデザイン特別演習は卒業研究へ直接つながる重要な演習であることを自覚して、積極的な発言や自律的な演習への参加が望まれます。またグループによる課題を実施する場合は協調性や責任感の有無を重視します。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習は、4年次での卒業研究（設計、論文）の準備段階と位置づけ、1～3年間で学んだことを基礎にしながら、自分でテーマを設定し、自分の考えることを論文レポートもしくは基本設計図にまとめあげることが狙いである。 ・テーマは、「住宅の再生」、「高齢者居住」、そして「住居全般」から各自の興味・関心に応じて教員と相談しながら決める。 ・まとめ方として、レポート（論文）、基本設計かは各自選択できる。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス、特別演習のテーマ設定と進め方</p> <p>第2回 テーマ設定・・・住宅の再生、高齢者居住、住居全般のなかで各自何を選ぶか</p> <p>第3回 テーマ設定・・・各自のイメージメモを</p> <p>第4回 テーマ設定・・・各自レポート</p> <p>第5回 テーマ設定・・・各自のテーマの大枠設定</p> <p>第6回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（1）</p> <p>第7回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（2）</p> <p>第8回 レポート骨子、スケッチ（1）</p> <p>第9回 レポート骨子、スケッチ（2）</p> <p>第10回 中間講評、見学会</p> <p>第11回 まとめかた・・・レポートと基本設計の描き方</p> <p>第12回 まとめる（1）レポートと基本を設計描く</p> <p>第13回 まとめる（2）レポートと基本設計を描く</p> <p>第14回 まとめる（3）・・・完成させる</p> <p>第15回 全員による講評会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	みんなでの討論を大事にする
評価方法 Evaluation	平常点30%、小テスト・レポート70%
履修上の注意 Requirements and policy	施設の見学を行なうことがあるが、交通費などは自己負担。 前期の「生活福祉学」、「ハウジングデザイン実習Ⅲ」も併せて履修するとよりいいものが出来上がるので受講を推奨する。
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に随時紹介
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住空間のデザインについて、関西の近現代の建築家の作品を中心に、社会的、文化・芸術的視点から読み解きながら、問題意識を深めていく。関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、随時レポートにまとめる。またポートフォリオや小課題の制作、発表、討論を積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行っていく。						
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について、ポートフォリオの作り方 第2回 第1課題 ポートフォリオの作成 第3回 第1課題 ポートフォリオの作成 第4回 第1課題 発表と講評、第2課題 関西の作家研究 課題説明 第5回 第2課題 参考資料検索、質疑応答 第6回 第2課題 参考作品資料の作成 第7回 第2課題 発表と討論、第3課題の説明 第8回 第3課題 3Dモデリングの練習 第9回 第3課題 3Dモデリングによるインテリアエレメントの作成 第10回 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論 第11回 第4課題 卒業制作テーマ関連 小作品の制作 第12回 第4課題 卒業制作テーマ関連 小作品の制作 第13回 第4課題 卒業制作テーマ関連 小作品の制作 第14回 第4課題 卒業制作テーマ関連 小作品の制作 第15回 第4課題 発表と討論						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習および実習 (CADも使用)						
評価方法 Evaluation	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率: 小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)						
履修上の注意 Requirements and policy	履修者は、2年次に「ハウジングデザイン実習1」および「ハウジングCAD実習」を履修済の人に限る。3年前期の「インテリアデザイン実習」もあわせて履修することがのぞましい。課題および各自のテーマに関する見学を適宜指示する。(交通費自己負担)						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインと社会						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「デザインの社会的意味」 「ヒトとデザイン」を踏まえて、より広くデザインとその社会的側面に注目します。 専門分化したデザイン領域の関係性、企画・構想から消費・廃棄に至るデザイン・プロセスの構造などについて概観しながら、特に、ファッション・デザインとハウジング・デザインの間中に存在するプロダクト・デザインの領域に焦点を当てて、社会的に重要性を増しているエコロジーに配慮したデザインの可能性について考えます。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. デザインの領域（1） 3. デザインの領域（2） 4. デザインプロセス（1） 5. デザインプロセス（2） 6. ライフスタイルとデザイン（1） 7. ライフスタイルとデザイン（2） 8. 消費社会とデザイン（1） 9. 消費社会とデザイン（2） 10. 都市とデザイン（1） 11. 都市とデザイン（2） 12. デザイン教育の歴史（1） 13. デザイン教育の歴史（2） 14. 社会的協同のデザイン 15. まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	テスト、レポート、出席状況を総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要です。学外の見学を実施する場合があります。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。授業中に紹介します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	黒田 達雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中高層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2課題程度敷地を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計を行う。ハウジング実習Iなどで学習した知識やスキルも使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り、自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し、共同で全体模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント 2. 課題1の敷地状況調査とその整理 3. 同上全体計画のコンセプトづくりと配置計画（ゾーニングとネットワーク）の作成 4. 同上平面・立面・断面のエスキースと図面作成、 5. 同上イメージスケッチ、CADパース作成 6. 同上模型作製 7. 同上課題のまとめとプレゼン用資料作成 8. 同上全員によるプレゼンと講評 9. 課題2の敷地状況調査とその整理 10. 同上全体計画のコンセプトづくりと配置計画（ゾーニングとネットワーク）の作成 11. 同上平面・立面・断面のエスキースと図面作成、 12. 同上イメージスケッチ、CADパース作成 13. 同上模型作製 14. 同上課題のまとめとプレゼン用資料作成 15. 同上全員によるプレゼンと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントやレジメを使って、事例紹介や設計の基本を講義 できるだけマンツーマン形式でコンセプトづくりから議論する
評価方法 Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況と授業態度（30%）（欠席は減点対象） ・調査分析力、コンセプト、構想力（20%） ・提出物・レポート、設計能力（30%） ・作図や表現力（10%） ・プレゼン力・ディスカッション参加（10%） ・小テスト、期末テスト共に無し（0%）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>想像（イメージ）し創造（クリエート）することの喜びを味わわせたい。 その意欲は、質の高い魅力的な建築を常日頃から国内外で体験し、感動することから生まれる。 そのためには、住宅に限らず優れた建築や街並みの事例を学外見学・研修として学ぶ（ただし、交通費等は自己負担です）。</p>
教科書 Textbook(s)	特になし、適宜必要なレジメ・プリントを配布
参考書 Reference(s)	特になし、必要に応じ提示することもある
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	松村 正希						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	中高層住宅の単体あるいは集住・集合体について、企画から基本設計及び一部の詳細設計を行なう。ハウジングデザイン演習Iなどで学習した知識やスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み、人が住むという本来の意味を考えるため、孤独死やひきこもり、こどもの環境、家族関係、認知症や障害者等社会的弱者と住環境との関係を考察し、CADにより平面、立面、断面の一般図を作成し、伝えたい空間をスケッチやパースで表現し全体模型などを作る。各々の課題についてクラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えた事を他の人たちに伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。						
授業計画 Syllabus	第1回 ゼミナールで課題の設定を行う。 第2回 課題の設定とその学習及び整理 第3回 課題の設定とその学習及び整理 第4回 課題のプランニング 第5回 課題のプランニング 第6回 課題のプランニング 第7回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第8回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第9回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第10回 課題の作図及びスケッチ、パースの作成 第11回 模型の作成 第12回 模型の作成 第13回 模型の作成 第14回 課題のまとめ及びプレゼンテーションの準備 第15回 全員のプレゼンテーション						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義はビデオ等で基本的な部分にとどめ、学生同士の考察を重点におき演習を中心にして進めて行きたい。学生が暮らしているそれぞれの社会にどれだけ目を向けているかを考察したい。						
評価方法 Evaluation	授業の出席および授業中の態度30% 設定した課題の小論文25% 課題のプランニング及び作図、スケッチ、パース、模型の作成25% 課題のまとめ及びプレゼンテーション15% その他5%						
履修上の注意 Requirements and policy	特に授業の出席および授業中の態度を重要視している。						
教科書 Textbook(s)	特になし。 必要と思われる場合は参考程度で紹介はする。						
参考書 Reference(s)	特になし。 必要と思われる場合は参考程度で紹介はする。						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅳ						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	一定の広がりを持つ町の計画、アーバンデザインである。120m四方ほどの街区を単位として住宅・商店・公園・公共施設を配置する。景観のデザインや部分的なストリートファニチャーのデザインなども行う。
授業計画 Syllabus	1課題とする街区の提示 2街区の特徴 3事例研究1 4事例研究2 5事例収集の発表 6企画 7基本構想1 8基本構想2 9基本設計1 10基本設計2 11中心施設の設計 12平面図のしあげ 13立面図のしあげ 14断面図のしあげ 15講評
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	ひとつの課題に対する演習
評価方法 Evaluation	提出した作品による
履修上の注意 Requirements and policy	都市に興味をもっていること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論II						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	住宅・建築単体よりも広い範囲の空間のデザイン論である。 日本や世界にはどんな町、居住地があるのかからあらためて考え、都市デザインの理論を学ぶ。 とりわけK.リンチとC.アレグザンダーのデザイン論は詳しく学ぶ。 演習的な内容を含む。 ハウジングデザイン実習Ⅳの前段となる。
授業計画 Syllabus	1 近年のアーバンデザイン論 2 リンチのアーバンデザイン論 3 都市のわかりやすさ 4 小課題1の案 5 小課題1の完成 6 アレグザンダーのアーバンデザイン論 7 「7000人のコミュニティ」 8 「人前の居眠り」 9 「どこにも老人」 10 「四階建ての制限」 11小課題2の案 12小課題2の完成 13欧米のアーバンデザイン最前線 14小課題3の案 15小課題3の完成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習的な内容を含む講義
評価方法 Evaluation	授業中に作成するいくつかの小課題により、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある
履修上の注意 Requirements and policy	都市のあり方や景観に興味をもっていること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	松下 温子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>流行の変化が速く、多様なデザインが要求されるファッション業界では、生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されている。実習Iでは、衣服の型紙を作成するパターンメイキング、サイズ展開を行うグレーディング、パターンを布地に配置するマーキングのプロセスを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の修得と活用の有効性を考える。簡単な仮想縫製（着装シミュレーション）も行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 序 ファッション産業でのCADの活用 使用機器・ソフトの紹介と『Pattern Magic』の操作練習 第2回 ブラウスのパターン製作 身頃 第3回 ブラウスのパターン製作 袖・衿 第4回 ブラウスのパターン製作 仕上げ・チェック『仮想縫製』 第5回 工業用パターンの作成 縫代付け 実寸大パターンの入出力（スキャナ・プロッタ操作） 第6回 グレーディング 第7回 マーキング 第8回 デザイン展開 身頃・衿・袖 第9回 デザイン展開 スカート・パンツ 第10回 ワンピースの製図 第11回 仮想縫製 応用 第12回 パンツの製図、自由作品・レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magic で型紙作成 第14回 自由作品>i-Designer で仮想縫製 第15回 レポート作成・提出、講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	コンピュータを使用しての演習形式
評価方法 Evaluation	作品とレポート、出席状況と授業態度を総合して評価する (作品30% レポート50% 出席・授業態度20%)
履修上の注意 Requirements and policy	原則、欠席・遅刻は認めない（やむを得ない場合のみ2/3以上の出席とする） 各自でUSBメモリを購入し持参する（他教科との兼用可）
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	ファッションCAD実習IIを履修する人は、この科目を必ず履修すること

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	松下 温子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>流行の変化が速く、多様なデザインが要求されるファッション業界では、生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されている。実習Iでは、衣服の型紙を作成するパターンメイキング、サイズ展開を行うグレーディング、パターンを布地に配置するマーキングのプロセスを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の修得と活用の有効性を考える。簡単な仮想縫製（着装シミュレーション）も行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 序 ファッション産業でのCADの活用 使用機器・ソフトの紹介と『Pattern Magic』の操作練習 第2回 ブラウスのパターン製作 身頃 第3回 ブラウスのパターン製作 袖・衿 第4回 ブラウスのパターン製作 仕上げ・チェック『仮想縫製』 第5回 工業用パターンの作成 縫代付け 実寸大パターンの入出力（スキャナ・プロッタ操作） 第6回 グレーディング 第7回 マーキング 第8回 デザイン展開 身頃・衿・袖 第9回 デザイン展開 スカート・パンツ 第10回 ワンピースの製図 第11回 仮想縫製 応用 第12回 パンツの製図、自由作品・レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magic で型紙作成 第14回 自由作品>i-Designer で仮想縫製 第15回 レポート作成・提出、講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	コンピュータを使用しての演習形式
評価方法 Evaluation	作品とレポート、出席状況と授業態度を総合して評価する (作品30% レポート50% 出席・授業態度20%)
履修上の注意 Requirements and policy	原則、欠席・遅刻は認めない（やむを得ない場合のみ2/3以上の出席とする） 各自でUSBメモリを購入し持参する（他教科との兼用可）
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	ファッションCAD実習IIを履修する人は、この科目を必ず履修すること

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：古代から現在にいたるまでの服装の流れを社会的・心理的な面も踏まえながら学ぼう。</p> <p>ファッション・システム成立以降のファッションの歴史を、各年代の流行のスタイルの変遷にとどまらず、モダンアートや他のデザイン領域の歴史、大量生産・消費社会の成立、女性の社会的進出、若者文化の台頭など社会経済的発展とも関連付けて概観する。その際、パリにおけるオートクチュール産業の形成からプレタポルテ、既製服産業としての拡がり、シャネル、ディオールをはじめとするスター・デザイナーの役割、ナイロン、レーヨンなどの新素材の開発、理想的な身体美の変化といった点にも留意する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>1 . オリエンテーション：ファッション史で何を学ぶのか。15回の授業の流れを説明する。</p> <p>古代・中世の服飾：壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。</p> <p>2 . 16世紀の服飾：肖像画をもとに16世紀の衣服形態と装飾にふれる。</p> <p>3 . 17世紀の服飾：ヨーロッパにおいてモードの中心となったフランスと服飾にみられるバロックの美意識について知る。</p> <p>4 . 18世紀の服飾：優美なロココから装飾を拒んだ新古典主義への変化について時代背景等を考慮しながら読み取り、衣装形態を把握する。</p> <p>5 . 19世紀の服飾(1)：19世紀紳士服の形態について知り、ダンディズムの思考を読み取る。</p> <p>6 . ロマン主義、ペチコートで膨らんだスカート、クリノリン・スタイル、バスル・スタイルへと形態変化した女性の服飾について説明する。</p> <p>7 . 19世紀の服飾(2)：モード産業の基盤、ウォルトによりパリ・オートクチュールの基盤が築かれたことについて述べる。また、女性解放運動をもとにした改良服の取り組み、ジャポニズム、アール・ヌーヴォーを背景とした服飾について知る。</p> <p>8 . 19世紀後半から20世紀前半の服飾：他分野(デザイン運動)にみる新しい衣服の芽生え、他分野とファッションの関係性について述べる。</p> <p>9 . 20世紀前半の服飾(1)：ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとするモードの取り組みについて説明する。</p> <p>10 . 20世紀前半の衣服(2)：マドレーヌ・ヴィオネのドレス形態、思考とその周辺について述べる。</p> <p>11 . 20世紀前半の服飾(3)：女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて見ていく。</p> <p>12 . 20世紀後半の服飾(1)：戦後のファッション、既製服(プレタポルテ)産業の発展について。</p> <p>シャネル、ディオールをはじめとするスター・デザイナーの役割を説明するとともにクレア・マッカーデルとアメリカ既製服を考える。</p> <p>13 . 20世紀後半の服飾(2)：三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。</p> <p>14 . 20世紀後半から現代へ：ベルギー、オランダをはじめとするモード学校とデザイナーの活動について知り、芸術・アートとファッションの関係性について読み取る。一方、ユニバーサル・ファッション、エコとファッションの関わりなどファッションの多方面への広がりとその可能性について考える。</p> <p>15 . 授業のまとめ、試験：半期の内容を見直し、復習する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	定期試験およびレポート、出席状況を加味する。

履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	深井晃子編著『世界服飾史』美術出版社
参考書 Reference(s)	菅原珠子・佐々井啓著『西洋服飾史』（朝倉書店） 青木英夫編著『服装史』（酒井書店・育英堂） 文化服装学院編『文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩ 20世紀ファッション』（文化出版局）
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ワンピースの各種デザイン、パターンメイキング、縫製の実習から、デザインのコンセプトやイメージ、ディテールを衣服そのものへの確に表現する方法と基本的な縫製技術の習得をめざす。とくに、現代において求められている多岐にわたるデザインへの対応能力を養成するため、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体裁断法）の実習を行うことから、さまざまなデザインや素材に適したテクニックの使い分けを身につけ、また、衿や袖などの部分的なパターンを理解する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、ワンピース「製図」: ワンピース(第2回目~第11回目)とパンタロン(第12回目~第15回目)の授業内容について説明する。各自の体型にあったプリンセスラインのワンピースを製図する。1/5大の製図を提出する。 2. ワンピース「仮縫い・補正」: シーチングでタイトスカートと仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。 3. ワンピース「裁断・印付け」: 布の地直しを行う。ワンピースの型紙どおりに布を裁断する。 4. ワンピース「縫製①・身頃」: 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ワンピースを縫い合わせ組み立てる。 5. ワンピース「縫製②・身頃」: 裾にロックミシンをかけ、ファスナーをつける。襟ぐりに見返しをつける。 6. ワンピース「縫製③・袖」: 袖を作り、ワンピースの身頃に袖をつける。袖の縫代にロックミシンをかける。 7. ワンピース「仕上げ」: ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 8. パンタロン「製図」: 各自の体型にあったパンタロンを製図する。1/5大の製図を提出する。 9. パンタロン「裁断」: 布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。 10. パンタロン「縫製」: 縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナーをつける。 11. パンタロン「仕上げ」: ベルトを作り、ウエスト部分につける。ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 12. 立体裁断「ワンピース①・前身頃」: ワンピース(身頃、フレアスカート、衿、袖)を立体裁断で作製する。身頃(プリンセスライン)の作製方法を学ぶ。 13. 立体裁断「ワンピース②・後身頃」: スカートの作製方法を学ぶ。 14. 立体裁断「ワンピース③・スカート」: 衿の作製方法を学ぶ。 15. 講評・まとめ: 立体裁断「ワンピース」作品発表・講評会を行い、授業のまとめをする。
参照URL Reference URL(s)	

授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。 作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編 I』 文化出版局 2007年 第二版 ISBN978-4-579-10859-6
参考書 Reference(s)	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ワンピースの各種デザイン、パターンメイキング、縫製の実習から、デザインのコンセプトやイメージ、ディテールを衣服そのものへ的確に表現する方法と基本的な縫製技術の習得をめざす。とくに、現代において求められている多岐にわたるデザインへの対応能力を養成するため、平面パターン（平面製図法）とドレーピング（立体裁断法）の実習を行うことから、さまざまなデザインや素材に適したテクニックの使い分けを身につけ、また、衿や袖などの部分的なパターンを理解する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」、ワンピース「製図」：ワンピース(第2回目～第11回目)とパンタロン(第12回目～第15回目)の授業内容について説明する。各自の体型にあったプリンセスラインのワンピースを製図する。1/5大の製図を提出する。 2. ワンピース「仮縫い・補正」：シーチングでタイトスカートを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。 3. ワンピース「裁断・印付け」：布の地直しを行う。ワンピースの型紙どおりに布を裁断する。 4. ワンピース「縫製①・身頃」：縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ワンピースを縫い合わせ組み立てる。 5. ワンピース「縫製②・身頃」：裾にロックミシンをかけ、ファスナーをつける。襟ぐりに見返しをつける。 6. ワンピース「縫製③・袖」：袖を作り、ワンピースの身頃に袖をつける。袖の縫代にロックミシンをかける。 7. ワンピース「仕上げ」：ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 8. パンタロン「製図」：各自の体型にあったパンタロンを製図する。1/5大の製図を提出する。 9. パンタロン「裁断」：布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。 10. パンタロン「縫製」：縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナーをつける。 11. パンタロン「仕上げ」：ベルトを作り、ウエスト部分につける。ホック付け、まつり縫い、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 12. 立体裁断「ワンピース①・前身頃」：ワンピース(身頃、フレアスカート、衿、袖)を立体裁断で作製する。身頃(プリンセスライン)の作製方法を学ぶ。 13. 立体裁断「ワンピース②・後身頃」：スカートの作製方法を学ぶ。 14. 立体裁断「ワンピース③・スカート」：衿の作製方法を学ぶ。 15. 講評・まとめ：立体裁断「ワンピース」作品発表・講評会を行い、授業のまとめをする。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書、配布プリント、スライドの内容にそって実習する。
評価方法 Evaluation	作品提出およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習のため、原則、欠席・遅刻なし(やむをえない場合は、2/3以上の出席)。作品を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編I』 文化出版局 2007年 第二版 ISBN978-4-579-10859-6
参考書 Reference(s)	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関しても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を企画できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画I ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画II ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画III ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画IV 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画V 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画VI 商品展開計画の作成 どこのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成I コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成II コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成III コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成IV コンセプトマップ I~Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成V コンセプトマップ I~Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションI プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションII 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）
評価方法 Evaluation	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	パソコンスキルがある方は活かして下さい。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャンダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関しても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を企画できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャンダイジング。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画I ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画II ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画III ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画IV 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画V 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画VI 商品展開計画の作成 どこのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成I コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成II コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成III コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成IV コンセプトマップ I~Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成V コンセプトマップ I~Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションI プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションII 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）
評価方法 Evaluation	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	パソコンスキルがある方は活かして下さい。

教科書 Textbook (s)	オリジナルテキスト
参考書 Reference (s)	織研新聞、様々なファッション雑誌
備考 Remarks	各自切り抜ける雑誌やカタログを何冊か準備して頂きます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論II						
担当教員	石田原 弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッションビジネス論 I に続き、デザイナーをはじめとする専門職種の業務の実際、マーケティングやライフスタイル情報の収集、マーチャンダイジングの企画方法、ファッションコーディネートとスタイリング、ディスプレイなどファッションビジネスを支える実務に関する知識を体系的に習得する。 また、デザインの果たす役割、消費社会とライフスタイル、技術革新や環境問題などの要因も考慮し、消費者、生活者の視点から創造的なライフスタイルを提案できるファッションビジネスの在り方を探る。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨今のファッションビジネス 2. ファッションビジネスにおけるマーケティング 3. ファッション業界、繊維業界、アパレル業界 4. アパレルの流通 ① 5. アパレルの流通 ② 6. ファッションビジネスの計数知識 ① 7. ファッションビジネスの計数知識 ② 8. ファッションビジネスの計数知識 ③ 9. ファッションビジネスの計数知識 ④ 10. 繊維素材の基礎知識 ① 11. 繊維素材の基礎知識 ② 12. 繊維素材の基礎知識 ③ 13. ブランドビジネスの変遷と現状 14. ファッションビジネスの販売戦略 15. ファッションビジネスの広告宣伝
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	主として講義、 また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の 見学を実施する可能性もあります。
評価方法 Evaluation	課題レポートの提出（60%）および、出席状況（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	ファッションビジネスは座学ではないので、日々の消費行動において、 売り手側の販売促進や販売方法をよく観察することが、本科目の理解を深めることにな る。
教科書 Textbook(s)	特になし。 必要であればプリントを配布。
参考書 Reference(s)	特になし。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代ファッションにおけるブランドの影響力は大きく、憧れの商品を手に入れることは消費者の夢でもある。この講義では代表的なファッション・ブランドを取り上げ、ブランド形成の歴史とデザイナー個人が果たす役割、ブランドの独自性と永続性、商品企画とメディア戦略、ブランド・イメージの意味について考える。また、日本人のブランド嗜好や現代日本におけるブランドの役割を考慮に入れながら、文化産業としてのブランドの象徴性や物語性等について考察する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) ファッション・ブランドとは 3) ポール・ポワレ(1) : デザイナーとしてのポワレ 4) ポール・ポワレ(2) : ファッション・ブランドへの発展 5) シャネル(1) : ガブリエル・シャネルの仕事 6) シャネル(2) : メディアの中のシャネル (1) 7) シャネル(3) : メディアの中のシャネル (2) 8) ディオール(1) : クリスチャン・ディオールの仕事 9) ディオール(2) : ブランドとしての展開 10) エルメス(1) : 19世紀パリと馬車の文化 11) エルメス(2) : 馬具からファッションへ 12) ルイ・ヴィトン(1) : 19世紀パリと鉄道 13) ルイ・ヴィトン(2) : トランクからファッションへ 14) ルイ・ヴィトン(3) : LVMHのブランド展開 15) まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。
評価方法 Evaluation	授業中小レポート (50%) と期末テスト (50%) を実施する。 欠席は減点とする。
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁。
教科書 Textbook(s)	適宜、資料を配布する。
参考書 Reference(s)	山田登世子著『ブランドの世紀』マガジンハウス、2000年。 深井晃子編『ファッション ブランド・ベスト101』新書館、2001年。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この演習では制作者の立場から、ファッション・ショーというプレゼンテーションの仕組みを理解させ、より現実的な企画力を習得へ導く。初めにはファッション・ショーの歴史、役割、近年の事例について解説し、次に、ファッションショーの実施のために必要な様々な要素の総合的な提案をさせる。このとき、デザイン特別演習での制作を考慮し、その作品を含めたヴィジュアル資料の作成とプロジェクト全体のプレゼンテーションを行わせる。
授業計画 Syllabus	<p>1回. 授業の全体の流れについて説明する。</p> <p>2回. 興味を持つファッション商品について調べる。</p> <p>3回. アンケート調査のシートの作成</p> <p>4回. ファッションアイテムについて消費者の意識を調べる。</p> <p>5回~8回. ExcelおよびSPSSによる調査したデータの統計処理を行う。</p> <p>9回. 結果のまとめ方 パワーポイントおよびPhotoshop, Illustratorなどのパソコンツールを用いる</p> <p>10回. 新商品提案の企画 - ターゲット設定</p> <p>11回. トレンドの予測およびコンセプト設定</p> <p>12回. 商品構成</p> <p>13回. 新商品提案の企画 - デザイン・イメージにマッチした素材選定</p> <p>14回. ファッションアイテムのデザイン線画制作</p> <p>15回. 発表および評価</p>
参照URL Reference URL(s)	配布プリント参考
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	課題レポート (30%) と最終課題作品の評価 (20%)、出席状況 (50%)
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	特になし、必要であればプリント配布
参考書 Reference(s)	特になし
備考 Remarks	特になし

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ファッション写真、イメージ映像から、コレクションの展示、ファッションショーに至るまで、メディアを利用した多様なファッションイメージ表現の現状を踏まえ、優れた表現手法の分析・検討を通じて、オリジナルな発想に基づく写真・映像表現を提案する。また、そうした表現を素材に、特定のブランドを想定したDM, ポスター、雑誌広告などのメディア企画やデザインを試みる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「ファッションメディア」の分類と現状 3. ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショッピングカードなど） 4. ブランドプロモーションツールの収集・整理 5. ブランドロゴとタイポグラフィー 6. 仮想ブランドのロゴ制作 7. 仮想ブランドロゴの応用（Tシャツデザイン） 8. ブランドプロモーションツール研究（1）調査・企画・制作の選択 9. ブランドプロモーションツール研究（2）対象・範囲・方法の検討 10. ブランドプロモーションツール研究（3）コンセプト・計画の説明 11. 収集資料の要約・整理 12. レポート・提出物概要の検討 13. レポート・提出物制作（1） 14. レポート・提出物制作（2） 15. プレゼンテーションと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習・実技
評価方法 Evaluation	平常点（授業への積極的な参加、欠席の場合は減点）20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%
履修上の注意 Requirements and policy	分析・検討の対象となる既成のイメージ表現や、制作・企画対象となる映像やデザインは各自の関心により自由に選択できるものとする。従って、自身の興味や感性を明確に限定できることが望まれる。
教科書 Textbook(s)	特に無し。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。</p> <p>○授業の目的、概要 現代のファッションは衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めるに至っている。身体そのものを基盤とするようなこうしたファッション領域をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○シラバス（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：人間はなぜ衣服を着るのか？ 2. なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 3. 身体の加工（コルセットや纏足など） 4. 衣服の始まりと役割 5. 衣服の社会性①（ジェンダー） 6. 衣服の社会性②（制服とは） 7. モード化する社会（流行の理論を考えよう） 8. 身体装飾①（化粧） 9. 身体装飾②（ボディーペインティング、タトゥーなど） 10. 世界モードと日本の衣服の交配（ハイブリット） 11. 「包む」文化と「着方」文化 12. 衣服のライフスタイル 13. 衣服とコミュニケーション 14. 肌で感じるファッション 15. からだの日本文化と試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験、提出物、出席状況による総合評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	○教科書：教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。
参考書 Reference(s)	<p>○参考書：パーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』（鹿島出版会）</p> <p>鷲田清一著『ファッションという装置』（河合ブックレット17）</p> <p>ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘至訳『ファッションの文化社会学』（せりか書房）</p>
備考 Remarks	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	まちづくり論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>前半は都市計画・まちづくりの歴史、後半は都市のあり方の新しい理論を学ぶ。 歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおける パリ大改造の話を中心とする。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学ぶ。 新しい理論のなかでは日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦 点となる。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学ぶ。 また、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をして いる。これらをできるだけ総合的に学ぶ。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに—地域生活空間の学問 2 職住緑近接 3 居住地の構成 4 世界の大都市 5 中小都市・農村・ニュータウン 6 都市論の基礎+まとめ 7 産業革命が出发点19世紀のイギリス 8 パリ大改造 9 田園都市論 10 日本の都市計画のしくみ 11 都市計画史の+まとめ 12 新しいまちづくりの考え方 13 人間的な交通・景観 14 地球環境問題 15 新しいまちづくり+まとめ 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	映像を多用する講義						
評価方法 Evaluation	授業中に行う2回のテストにより、100%の評価を行う 授業への参加の積極性を加味する場合もある						
履修上の注意 Requirements and policy	多角的な考察が必要である すくなくとも歴史に興味をもつこと						
教科書 Textbook(s)	図解住居学編集委員会編（彰国社）『図解住居学 1 住まいと生活』 2年次以降の「景観論」「建築計画学」でも使う						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>○テーマ：生活文化を軸としてライフスタイルを考える。</p> <p>○授業内容 ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後の経済発展とライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化とライフスタイル、レジャー・スポーツと衣食住、生活創造産業とライフスタイル・マーケティング、少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイル、エコロジーや省資源・省エネルギーとライフスタイルなどの観点からライフスタイルについて考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>○授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明 2. ライフスタイルとは何か？ 3. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー 4. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー 5. 家族周期と個人のライフスタイル 6. ライフデザイン（生活設計）とその考え方 7. 世代によって異なるライフデザイン 8. 生活時間の管理・労働・余暇 9. 高齢者の経済生活とライフスタイル 10. 生活行動と消費の文化 11. 衣生活とライフスタイルーファッション革命ー 12. 雑誌から読み取るライフスタイル 13. ライフスタイルの社会調査 14. ライフスタイル分析 15. 新たな都市におけるライフスタイル
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	○授業方法：プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価方法 Evaluation	○評価方法：定期試験およびレポート、出席状況を加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	○履修上の注意：2/3以上の出席。指定する課題を必ず提出すること。
教科書 Textbook(s)	○教科書・参考書：プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	○参考書は、授業中に紹介する。
備考 Remarks	